

通貨の通用圏について

Kent.M.

kentm.1611@gmail.com

1.はじめに

本文は、通貨の通用、通用圏の定義と通貨価値の関係性について述べたものである。

2.通貨の通用とは

通貨が通貨たる要件として、 D が十分大きいことがあるが、そのためには通貨の信認 T について、 $T > 0$ であることが必要条件となる。通貨の信認 T については、「世界における数値」であり、取引の間の通貨を介在させる場合、購入者側には十分な量の通貨が、売却者側には「個人的な」通貨への信認 t が必要である。取引を行う 2 者の間にこれがあるとき、当該通貨を用いた取引は初めて成立し得る。この条件が揃ったとき、取引の成立・不成立に関わらず、通貨が「通用した」ということとする。

3.通貨の通用圏とは

通貨は、多くの者に対して通用しなくてはならない。2 者の間でのみ通用するものは、単なる交換財にすぎないからである。ここで、通貨が通用する範囲の大きさを通用圏 S (Scope)とし、通用圏 S を全世界とみて、価値方程式に $T = t_s$ を代入すると、次式が成り立つ。[1]

$$D_s = \frac{t_s}{I}$$

このとき、通貨の通用圏 S における価値 D を D_s としたが、これは当該通貨が必ずしも通用する訳ではない世界における価値 D と通用圏内における価値 D_s とでは異なることが分かるからである。[2]

4.通用圏の規模と価値 D について

価値 D は通用圏の規模に比例することを示す。ただし、ここで価値 D は世界での価値 D_w を表す。通用圏 S の規模は、 t_s であり、これは通用圏 S が広がるにつれて信認 T に近づく。流通量を定数とみた場合、価値 D_w は通用圏価値 D_s に近づく。これは次式のように表される。

$$\lim_{s \rightarrow w} \left(\frac{t_s}{I} \right) = \frac{T}{I}$$

このことより、

$$\lim_{s \rightarrow w} D_s = D_w$$

が導かれる。

5.結論

通貨を利用できる範囲である通用圏は、広ければ広いほど通貨の世界価値 D_w は通用圏価値 D_s に近づく。 $D_s > D_w$ より、通貨の価値 D_w を上げるには、通用圏を広げることが有効であることが示せた。

参考

[1] Kent.M, 2020 「通貨の価値と発行について」

[2] 通用圏 S での価値 D_S と世界での価値 D とでは, $D_S \geq D$ がいえる。

また, $D_S = D$ と仮定すると, T は世界信認であり $t_S \neq T$ より不適切。 $\therefore D_S > D$

注意

I を I_S とする必要はない。 S が通用圏であり, $I_S = I_W$ (W は全世界とする)

\therefore 通用圏外では流通量 $I = 0$ であるため, 価値方程式の値は不定となる。